

第3章 小豆島町の歴史文化の特徴

本町の「地域の宝物」は、第2章で示したとおりさまざまな形で幅広く存在しており、これらを結び束ねることで、町の歴史文化の特徴を見出すことができる。この特徴を見出すことで、個別の「地域の宝物」を超えた、町の歴史文化の特徴を理解することができる。

本章では、小豆島町の歴史文化を理解するための視点の提示を行って理解の促進を図るとともに、特徴を生かした保存・活用に向けた取組に向けた整理を行う。

特徴A 大地と生きるまち ～火山と瀬戸内海の景観と恵み～

小豆島は、1,300万年前～1,500万年前（新第三紀中新世）の火山活動とその後の侵食・崩壊により、特徴的な地形が生み出された。

名勝神懸山（寒霞渓）等の美しい渓谷と瀬戸内海の景観や、急峻な崖地に生きる動植物のほか、貴重なジオサイト、地形を生かした住居跡や城館などの史跡、棚田、修行の場である山岳霊場などが見られ、小豆島を代表する景観となっている。これらの優れた景観は、近代以降に島民の手によって積極的に発信され、小豆島が観光地として発展する基礎を形成した。

また、この大地によって良質な花崗岩や醤油、素麺、オリーブ等の産業や、それらに根付いた特徴的な文化等のさまざまな恩恵がもたらされ、古来島民は、その地形を利用して独特の歴史や文化、自然を形作ってきた。

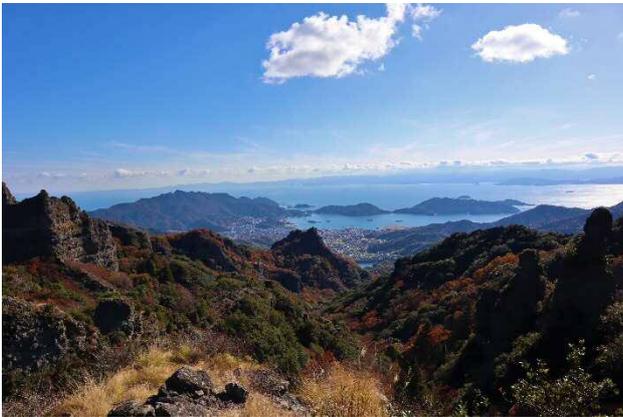


図 3-1 名勝神懸山（寒霞渓）と瀬戸内海



図 3-2 中山千枚田

特徴B 交流するまち ～東西交流の海の中継地～

小豆島は、古代から瀬戸内・海の道の中継地として近畿と九州、ひいては大陸との東西交流に重要な役割を果たしてきた。これらは、銅鏡等の外来の文物が出土する古墳や銅鐸・銅剣が共伴出土した遺跡、応神天皇にまつわる伝承、島内の中世城館遺跡等からも推測できる。小豆島霊場や大坂城石垣石丁場跡はその交流の歴史によって形作られたものであり、その姿は近畿との繋がりを示している。

伝統産業にも深く関わる。醤油産業は、地場産品の塩と九州方面の小麦、大豆を原料とし、その販路である大坂があって成立した。素麺産業も、三輪の素麺技術の伝承に始まり、島原の強制移住とともに島原

地方に伝播した。これらはいずれも技術、原料、製品、市場すべてが瀬戸内海を介した島の東西交流の成果である。これらの産業は、近代以降大いに販路を広げ、小豆島は大隆盛の時代を迎えた。また上方歌舞伎や周辺地域の特徴を受け継ぐ小豆島農村歌舞伎等、文化面においても深い関わりを持つ。

小豆島は、瀬戸内海を媒介とした他地域との交流により成り立ち、現在の複合的な歴史文化や「地域の宝物」が形成されている。



図 3-3 石垣用材として四角く割られた石
(国史跡 大坂城石垣石丁場跡小豆島石丁場跡)

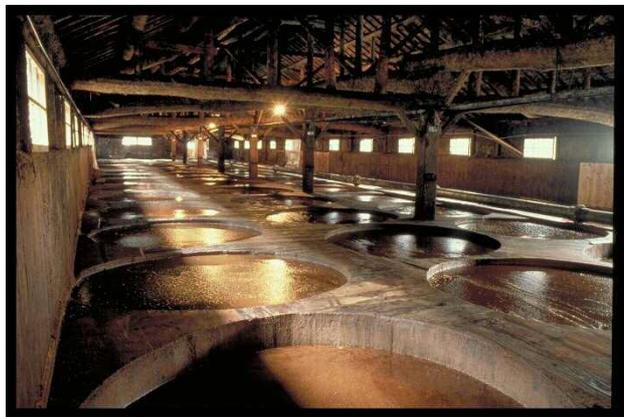


図 3-4 醤油醸造蔵 (マルキン醤油)

特徴 C 聖なるまち ～多様な信仰と祭礼～

小豆島には各所に山岳や洞窟、水や雨、巨石や巨木に関する信仰が残されている。これらの多くは、行基や空海らの事績と結びつき、小豆島八十八ヶ所霊場として遍路が集うほか、地域の神社や祠として信仰を集めている。

町内には、伝統的な行事や民俗芸能も多く、夏には棚田の虫送りや地域独自の盆踊りや盆行事、秋には豊作を感謝する農村歌舞伎や八幡神社秋季例大祭の太鼓台奉納、正月にはとんどが行われる。特に秋祭りは盛大であり、期間中は多くの人が帰省し島中が祭りに沸き立つ。各地区が奉納する巨大な太鼓台は、緻密な彫刻や仕掛けが施される美術工芸品であるほか、真横に返したり、昇きあげたり、斜めにして止まる等の地域ごとに特徴的な芸が奉納される。その他、オシコミ・幟さし等の地域独特の民俗芸能が奉納されるなど、地域の特色が表現されるとともに、伝承している各地域が誇りをもって伝統を継承している。



図 3-5 西の滝 (山岳霊場)



図 3-6 太鼓台 (亀山八幡宮例大祭)